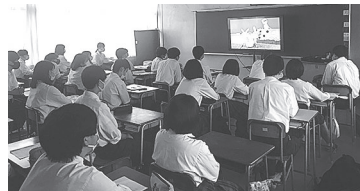
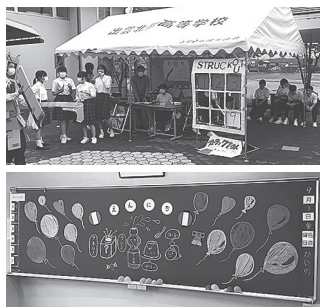


令和3年度 学園祭

テーマ『～学年の枠を越えて、コロナ禍を乗り越えて、伝統を越えろ～』

文化祭／9月3日(金) 本校 体育祭／9月7日(火) 出雲ドーム



体育祭

優勝 1年4組 (オレンジ)
2位 2年4組 (グリーン)
3位 2年5組 (トロピカルピンク)

体育祭Tシャツ

最優秀賞 2年2組
優秀賞 3年1組

ポスターコンクール

最優秀賞 小林 沙輝 (2-5 湖北)
優秀賞 神谷 凜 (1-4 出雲)
飯塚 真子 (出雲)

文化祭

弁論大会最優秀賞

埜谷のぞみ (2-5 小郡)

本年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、感染防止対策をしながら日程を短縮しての学園祭となった。文化祭は、3年生及び中学生は当日の企画を担当し、制約の中でそれぞれが工夫を凝らして楽しむことができた。昨年に比べ、参加する人数を分散させて密を避けたり換気に気を遣うなど、コロナ対策の意識の高さが生徒や教員全体に浸透したように感じられた。1年生は200人でパネルを使った人文字を作成した。少しづつ良い作品ができあがることで達成感を味わえたように思う。2年生は各クラスで10分動画を作成して発表した。クラスで意見を出し合い、映像チェックなどをする中で更に高みを求めることができた。体育祭は昨年に続きドーム開催であった。競技の選定から準備まで、生徒会を中心に意欲的に取り組んだ。競技は中高校クラス別の20チームで競い、熱戦を繰り広げた。コロナ禍ということで苦労した部分も多かったが、縮小することばかりでなく、このような状況だからこそ実現したものもあり、思い出に残る学園祭となった。

合唱部

4大会連続18回目となる

全国大会出場決定!!

高等学校部門Aグループ 金賞・鳥取県教育賞
第59回中国合唱コンクール
時 9月19日

於 松江総合文化センタープラハホール

県大会を通過し、中国大会に向けより一層力を入れて練習していたが、感染症拡大のため直前に音源審査に変更となった。中国大会に出場できる喜びと会場で歌えることに、生徒達は胸を膨らませていた。だからこそこの発表には無念や残念な思いをした。それでもやる気を失うことなく、録音に向けて努力し続けた。現地での開催は叶わなかったが、録音という新たな方法で生の演奏に負けない熱い魂を映し込んだ。結果、金賞を受賞し、10月に行われる全国大会へ進めることになった。

全国大会は更に厳しい戦いとなるが、この結果に満足することなく努力を続けていきたいと思う。(顧問 齋藤葉耶花)



全国大会で活躍が期待される合唱部

吹奏楽部

第34回全日本マーチングコンテスト島根県大会

時 9月20日
於 カミアリーナ



本年度は「アメリカ」をテーマにした委嘱作品でマーチングに取り組んだ。8月下旬からは本格的に練習を再開し、約3週間程度という短い練習期間だったが、生徒達はよく努力し、本番では素晴らしい演奏演技を見せ会場を魅了した。結果、金賞を受賞し、中国大会への出場権を獲得した。

10月に広島で行われる中国大会では島根県代表としての誇りを持って演奏演技をし、また全国大会に出場できるよう、引き続き精進していきたい。

(顧問 原田 実)

第60回島根県高等学校音楽コンクール

時 9月13日
於 グラントワ(益田市)

本校からは声楽部門へ10名、木管楽器部門へ10名、金管楽器部門へ11名、弦楽器部門へ2名の計33名が参加した。参加生徒は北陵高校生らしい素晴らしい演奏を披露し、結果は以下の通りとなった。

○声楽部門 1位 杉森さくら(36美)
2位 島袋 茜(36美)
3位 東 奈優(36美)

○木管部門 1位 島袋 茜(36美)
2位 東 奈優(36美)
3位 中林桃子(26北)

○金管部門 1位 島袋 茜(36美)
2位 東 奈優(36美)
3位 中林桃子(26北)

○弦楽部門 3位 加藤心琴(16出)

その他、各部門で多くの生徒が金賞を受賞した。本年も本校が多数上位入賞を果たすことができた。これも偏に、日頃からご指導いただいている音楽コースの先生方、応援していただいている地域の皆様、保護者の皆様のお陰であり感謝しております。今後とも変わらぬご支援賜りますようお願い致します。

(音楽科 竹内康貴)

卓球部

令和3年度全日本卓球選手権大会(ジュニアの部) 島根県予選大会

時 9月10・12日
於 島根県立体育館

〈男子シングルス〉

優勝 杉浦大和(22北)

第2位 佐藤卓斗(14北)

第4位 小川さくら(11野)

第5位 山本淳史(23欠)

※杉浦大和と佐藤卓斗が全日本選手権出場(男子ダブルス)

優勝 杉浦大和・佐藤卓斗 組

第2位 山本淳史・小川さくら 組

○大会総評 推薦出場の小野泰和(31北)と県予選を突破した杉浦、佐藤が来年1月に東京で開催される全日本選手権に出場する。そこで勝ち上がるためには、まだ技術の安定性、戦術のバリエーションが足りない。日々の練習で課題を克服していきたい。

(顧問 古瀬泰之)

ソフトテニス部

令和3年度島根県高等学校ソフトテニス選手権大会

時 9月11・12日
於 松江総合運動公園

〔男子〕

5ペアが新人戦でのシード権獲得

5位 川角悠太(21杜)・岩崎遥平(25出)

6位 木村蔵人(22東)・青木快生(24出)

B 32 高橋拓真(23欠)・堀江結太(13出)

神在俊輔(22河)・陰山晃成(22西)

原 優翔(21東)・江角虎哲(22河)

○大会総評 新チームでの初めての公式戦であったが悔しい結果となった。たくさん課題が見つかったので、新人戦に向けて頑張っていきたい。

(顧問 佐々木雄志)

〔女子〕

部員3名が大会に出場した。神田桜奈(15神)・竹下綾香(15神)・ペアがベスト16という結果であった。次の新人戦に向けて頑張っていきたいと思う。

(顧問 金森 快)

野球部

令和3年度島根県高等学校秋季野球大会兼第137回秋季中国地区高等学校野球大会島根県予選

時 9月20日
於 浜山球場

2回戦 本校 6-10 益田翔陽

○大会総評

今大会に向けて、チーム一丸となって準備を怠らなかつたが、初戦で敗退した大会直前にコロナ禍における部活動の活動制限を経験し、思うように野球ができない苦しみを昨年同様に痛感した。今回の敗戦により課題が明確化したため、その課題を克服し、一冬越えての飛躍に期待している。

当日は、保護者や学校関係者の皆様に応援に駆けつけていただき有難うございました。今後とも野球部の活躍に注目していただけたらと思います。

(監督 畑 宗一郎)

テニス部

ダブルス2位、シングルスベスト8 島根県テニス新人大会

時 9月18・20日
於 石見海浜公園・益田運動公園

〈男子シングルス〉

ベスト8 石川泰丞(22北)

中国大会出場!

〈男子ダブルス〉

2位 石川泰丞・土江裕貴(21東)

中国大会出場!

〈女子シングルス〉

1回戦敗退

1回戦敗退

○大会総評



地区予選を終えてから、1ヶ月で『テニスを進化させる』そして部活動自粛で『練習が1時間半しかないではなく、1時間半もある』と発

陸上競技部

第67回島根県高校新人陸上競技大会

時 9月19日
於 益田

走高跳 5位 梶谷匠千華(14神)

棒高跳 6位 小村健晴(14野)

1年100m 8位 原田律紀(11北)

三段跳 8位 玉木涼舜(24神)

やり投 8位 藤原 成(14北)

○大会総評

今回は台風接近により一日での開催となり、タイムテーブルが全て組み直された。トラック競技は各種目1レースのみで、全てタイムレース決勝。コロナ感染予防対策のため、選手・役員ともに入場するためのリストバンドの携帯が義務付けられた。選手はこのような雰囲気の中で、いかに自身の力を発揮できるかが注目された。

本校は、昨年大会と同様に5種目の入賞を果たした。目標にしていた中国大会には届かなかったが、二名の2年生を中心に、久々に出場した二つのリレー種目は、チームに自信と勢いをつけた力走だった。また、選手の半数が初めての陸上競技大会に出場したため戸惑うこともあったようだが、積極的に挑戦する姿に今後の活躍が期待できると感じた。これから全員が6月の県高校総体で更なる活躍ができるよう、冬季練習を頑張っていきたい。

今夏の異常な暑さの中での練習、8月末からのコロナ対策のための時間短縮の練習など、厳しい活動を強いられましたが、常に目標を見失わないようにして頑張っていきたい。

(顧問 別所美喜子)

破をかけて臨んだ大会。選手達が頑張ってくれ、男子ダブルスは決勝戦で敗れたが、力が勝る相手に対し、ダブルスらしい試合展開を見ることができた。

(顧問 石川剛亘)

写真部

令和3年度撮影技術大会

時 9月10・11日
於 本校(リモート)・出雲市(撮影)

昨年に引き続き、島根県各校と東京工芸大学を繋ぎリモートでの開催となった。ただ前回と違い、事前作品の講評会だけでなく、撮影ワークショップも行い、撮影課題を与えられて当日撮影した作品を講評していただくという流れであった。本校写真部も4班に分かれ、稲佐の浜、出雲大社、鹿島神社などに出向き、ワークショップ作品制作に取り組み、お蔭様で実りある2日間となった。

(顧問 村上 学)

吹奏楽部 体験入部

時 8月28日
於 本校黎明ホール

39名の中学生に参加いただき、本校吹奏楽部の日頃の練習を体験していただいた。今回は吹奏楽による基礎練習と行進曲の楽曲合奏を行った。参加いただいた中学生と本校吹奏楽部員にとって有意義な時間となった。

(顧問 竹内康貴)

美術部

令和3年度美術課題発表展

時 8月29日
於 本校美術棟

一学期の部活動作品や授業作品、夏休みに制作した新作を中心に展覧会を行った。

運営から受付まで手作りの展



会場の様子

覧会だったが、一生懸命さが観た人に伝わる良い展覧会になった。多数の方にご来場いただき、誠に有難うございました。

(顧問 飯塚康弘)

中学校

卓球部

小野 シングルス ベスト8！

第52回全国中学校卓球大会

時 8月23・26日
於 日環アリーナ栃木

【男子団体】優秀13校
〈予選リーグ〉

第1試合 本校 4-1 七飯(北海道)

第2試合 本校 4-1 足立学園(東京)

〈決勝トーナメント〉

1回戦 本校 2-3 明豊(大分)

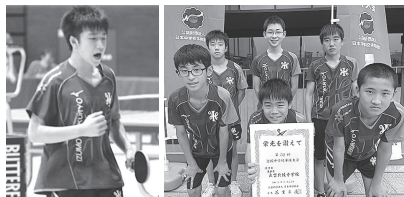
【男子シングルス】

ベスト8 小野泰和(柳瀬)

○大会総評

中学3年生が大変よく頑張った。特に小野は創部初となるシングルスでの入賞を果たし、卓球部に新たな歴史を作った。この頑張りを受け継いで欲しい。

(顧問 相場翔太)



ベスト8入賞の小野泰和

全日本卓球選手権カデットの部 島根県予選

時 8月28日
於 松江市総合体育館

【男子ダブルス】

優勝 三好蒼空(中1)・金丸 陽(中1)

【男子シングルス(U-13)】

2位 三好蒼空
3位 金丸 陽

○大会総評

ダブルスと、シングルスで三好が10月に開催予定の全国大会への出場権を獲得した。大会に向けて良い準備をしていきたい。

(顧問 相場翔太)



金丸 陽(右)と三好蒼空(左)

野球部

全日本少年春季軟式野球大会 出雲市予選

時 8月21・22日
於 湖陵 浜山少年球場

一回戦 本校 4-3 河南中

二回戦 本校 8-3 平田中

準決勝 本校 0-7 斐川西中

3位決定戦 本校 13-1 向陽斐川東中

○大会総評

3位で出雲・雲南ブロック大会への出場権を獲得した。県大会を目指して頑張りたいと思う。

(顧問 手銭修司)

出雲部中学校秋季野球大会

時 8月28日
於 出雲三中グラウンド

二回戦 本校 0-6 浜山中

○大会総評

雨の中の試合となり、思うように力が発揮できなかった。もともと心も体も鍛え直し、次の大会に挑みたい。

(顧問 手銭修司)

保育体験学習

9月6・8日に、3年生は市内の2箇所

の幼稚園、保育園で保育体験実習を行った。子ども達と運動会の予行演習を一緒に

行ったり、砂遊びなど、様々な活動を行った。

日頃は幼児と接する機会が少ない生徒達にとっ

て、貴重な経験をさせていただいた。お世話になった幼稚園、保育園の皆様、本当に有難うございま



た。

(担当 西村かおり)



令和3年度 第17回少年の主張 出雲市大会 銅賞受賞

時 9月13日
於 佐田中学校

弁士 錦織 初(中2)

演題 悔いが残らない人生に

今年は二年ぶりに会場に集い、市内の15校の生徒が熱弁をふるった。本校代表の錦織さんは、家族との体験を通して、自身の生き方について発表

した。厳かな雰囲気の中にも温かさが感じられる会場で、堂々と自分の思いを伝えることができた。この貴重な体験を今後の

中学生生活に生かして欲しいと思う。

(別所美喜子)



作品と研究

令和三年度 学園祭

校内弁論大会 最優秀賞

『いろいろな捉え方』

埴谷のぞみ(2・5歳)

東京オリンピックの選手村のホテルで、イスラエルの選手が段ボールベットを破壊した事について、あなたならどう捉えるか。

私は「段ボールベットってこんなに丈夫なんだ」と感じた。もちろん世間が非難しているように、製作者が一生懸命考案して準備してくれている備品を壊したことについては、私も否定的な意見だ。しかし、悪意があつての行動ではなく、モラルがないとはいえ興味本位での行動だったため、すべてを悪と捉えて頭ごなしに否定するのもそれはそれでいかなものかと思う。「わざわざ壊すなんてありえない」という意見も「九人乗っても壊れないことを証明してくれた」という意見も、どんな意見で

も間違つたものなんじゃないと思うが、同じ物事に対する意見なのに見方次第で肯定的にも否定的のものなるのは怖いことだと感じた。

東京オリンピックの話題でいえばもう一つ、名古屋市長がソフトボールの後藤選手のコメダルを噛んだ事について、あなたならどう捉えるか。

私は「この人は古い人間なんだろうな」と感じた。最初に金メダルを噛んだのは一九八八年ソウルオリンピック競技のオーストラリア代表の選手で、日本人では一九九六年アトランタオリンピック柔道の中村選手が初めて言われている。二十世紀後半にこの行為が撮影ポーズとして流行したが、二〇〇六年トリノオリンピックファイギュアスケートの荒川静香選手がメダルを噛む行為に否定的だったように、最近は傷をつけないためにメダルを噛まない選手が増えた。代わりにメダルにキスしたり、噛むポーズにしても歯はつけなかったりというのが主流になっている。後藤選手のコメダルを無断でいきなり噛んだことについて「最大の愛情表現

だった」と謝罪にもならないコメントした名古屋市長は、特に何も考えずに時代錯誤な価値観からこの行為に至つたのだろう。無断で他人の物を噛んだことや、コロナ禍にわざわざマスクを外して他人の物に唾液を付けたことに関しては、少し考えれば非常識な行為だと判断できたはずだ。軽率な行動によつて世間からは罵詈雑言を浴びて、印象は急降下して最悪だ。

しかし、これが人気のイケメン俳優だとすれば世間の反応は激変すると思う。名古屋市長によせられる讒

謗とは違い、むしろ「羨ましい」とか「メダルの価値が上がる」というような称賛のコメントがよせられるだろう。これはあくまでも私の勝手な想像だが、このように同じことをしても見た目で評価がかわることはよくあると思う。している行為は同じなのに同じように非難はしない。それは少

しおかしいと思う。行動の善し悪し

について批評するなら誰に対しても平等にするべきであつて、それがただの悪口や誹謗中傷になつてはよくないと思う。

人は物事をどんな視点で見ると捉え方が全く違うものになると思う。批評をするなら偏つた見方だけでなく、様々な方向からもっとたくさん捉え方をするべきだ。私自身も、自分の思いや発言に対して多角的な見方を通して、ただの誹謗中傷になつていないか考えるようにしたい。

今月の
1枚

「校舎と木」

福田 拓海(2・6歳)

